

極小未熟児の生後の体重変化

(分担研究：母子相互作用と乳幼児心理行動発達に関する基礎的研究)

多田 裕*

要約：生後の環境や保育法により、児の生後の発育がどのように変化するかを知るために、出生体重1500 g未満の未熟児の生後の体重変化につき検討し、次の結果をえた。

体重が1.5kgから2.0kgまでの500g増加するのに要する日数は、子宮内の胎児発育曲線からは21日と計算されるが、未熟児室で通常行われている保育方法では、1.25-1.5kgの児は16.6日、1.0-1.25kgは18.4日と子宮内を上回る発育であった。1.0kg未満の児も23.1日で500g増加したが、2kgに達するのは42週1日と遅れる傾向であった。

見出し語：極小未熟児、体重増加、哺育方法

研究方法：東邦大学医学部大森病院周産期センターに、昭和62年1月から12月迄に入院した出生体重1500 g未満の児の内生存した41名を調査対象とした。

通常の未熟児保育方法によりケアを受け、1日の哺乳量がほぼ160ml/kgとなり安定した体重増加を示すようになる体重1500 gから2000 gの間の日数を計算し、子宮内での胎児発育曲線の体重増加と比較した。

結果：出生体重により1000 g未満、1000-1249 g、1250-1499 gにわけA F D児とS F D児がそれぞれ1500 gから2000 gまでの体重増加に要する日数をみたところ、次のような結果がえられた。

出生体重	500 g 体重増加に要する日数
A F D 児	
- 999 g	23.1±3.9
1000-1249 g	18.4±2.1
1250-1499 g	16.6±3.0
(胎内発育曲線からの計算 21日)	
S F D 児	
- 1249 g	18.7±5.4
1250-1499 g	18.2±2.1

一方、体重が2000 gに達した生後日数を求め、出生時の在胎日数に加えて修正週数で体重が、2000 gに達した時期を見たところ次のような結果がえられた。

* 東邦大学医学部新生児学研究室
(University of Toho, School of Medicine,
Department of Neonatology)

出生体重	体重が2000 g に 達する週数
A F D 児	
- 999 g	42W 1 D ± 32.0 D
1000 - 1249 g	36W 6 D ± 12.2 D
1250 - 1499 g	36W 1 D ± 6.6 D
(胎内発育曲線からの計算 33W 5 D)	
S F D 児	
- 1249 g	42W 6 D ± 24.3 D
1250 - 1499 g	40W 3 D ± 14.2 D

考察：早産児は出産予定日より早くに出生するため、本来ならば子宮内で過ごすべき時期を、子宮外で過ごすことになる。

母体内という極めて安定した環境から、多くの刺激のある外界に出ることにより、児の身体ならびに精神的な発育発達がどのような影響を受けるかを知ることは、哺育環境をどの様に整備し、児をいかに取り扱うべきかという未熟児医療の臨床面のみでなく、全ての新生児や乳児にとっても、両親その他の人間関係や家庭環境が児の発育にどのような影響を与えるかを知る上から極めて重要である。

我々は昨年度の本研究で、未熟児の哺乳力の発達につき検討し、早産にて出生した児は、体重が小さくても在胎週数に換算すると、33-35週になると経口的に哺乳瓶からの哺乳が出来るようになることをみた。

本年度は、出生体重が1500 g 未満の極小未熟児の体重変化を検討する事により、今後児の保育方法の変更によりどのような変化が生じるかの基礎資料を得た。

体重増加は、与えられるカロリーにより影響を受けるが、同じ哺乳量であっても、児に与えられる刺激により差が認められる事が報告されている。

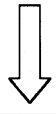
今回得られた結果は、わが国の未熟児医療にて通常行われている処置のもとに得られた結果であるが、出生後しばらくは十分な哺乳量が出来ず、体重が増加しないことを反映して、出生体重が1-1.5 kgの児では、体重が2 kgに達する時期は在胎週数に換算して36週と子宮内よりは約3週遅れていたが、1500 g から2000 g に増加するのに要する日数は、子宮内で21日にくらべ17日と追い付く傾向にあった。今後両親や看護婦が児に与える刺激や児の周囲の環境を整備することにより、どのような影響が現れるかを検討する予定である。

Abstract

Body Weight Gain of the Very Low Birth Weight Infants under the Routine Care of the NICU

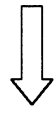
Hiroshi Tada *

To evaluate the effects of the cares and environmental factors on the development of premature infants, weight gain after birth is observed. To gain 500g of body weight from 1.5kg to 2.0kg, it takes 16.1 days and 18.4 days for infants with birth weight 1.25 to 1.5kg and 1.0 to 1.25kg respectively, which is faster than intrauterine fetal weight gain.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:生後の環境や保育法により、児の生後の発育がどのように変化するかを知るために、出生体重 1500g 未満の未熟児の生後の体重変化につき検討し、次の結果をえた。

体重が 1.5 kg から 2.0kg までの 500g 増加するのに要する日数は、子宮内の胎児発育曲線からは 21 日と計算されるが、未熟児室で通常行われている保育方法では、1.25-1.5 kg の児は 16.6 日、1.0-1.25 kg は 18.4 日と子宮内を上回る発育であった。1.0kg 未満の児も 23.1 日で 500g 増加したが、2 kg に達するのは 42 週 1 日と遅れる傾向であった。